

冒頭コメント

まずは、配付資料について説明します。「52ヘルツのクジラたち」。これは大分市のロケーションオフィスが誘致、撮影支援を行った映画です。3月1日から全国300館以上の映画館で公開開始となります。

町田そのこさんの原作で2021年本屋大賞を受賞した作品を、「八日目の蟬」で有名な成島出監督によって映画化されたものです。主人公が東京から移り住む海辺の町として、大分市でロケが行われました。

撮影地や本市の魅力を紹介するため、同じく撮影地となった北九州市と共同で制作したロケ地ガイドを上映映画館や大分駅、大分空港など市内外で配布するとともに、大分市美術館において撮影衣装や小道具などを展示する特設コーナーを設置するなどして、映画を活用した観光客誘致を図り、映像を通じて本市の魅力の再発見及び知名度の向上を図っていきたいと思います。

次は、例年おなじみですが、高崎山自然動物園第1号赤ちゃんザルの名前募集です。3月16日から第1号赤ちゃん誕生まで応募を受け付けています。採用された名前に応募した方の中から抽選で5名の方にオリジナルグッズをプレゼントします。

プレゼントは、初めて雌のボスザルとなった「ヤケイ」親子のぬいぐるみです。妊娠したので産休育休に入ったためボスを降りたと私は思っていますが、また復権の可能性もあるということで、親子の人形を作らせていただきました。2月1日から販売開始されており、既に22体購入されています。

1 発表項目

《1. 令和6年度当初予算（案）の概要》

1点目は、令和6年度当初予算案についてです。令和6年度の当初予算がまとまりましたので、資料に沿って説明します。

まず、歳入の根幹をなしている市税収入は、令和3年度以降増加しており、新年度も定額減税による個人市民税の減収に対する国の補填を含めると実質的に増加する見込みです。

しかしながら、歳出については、扶助費をはじめとした社会保障関係費や老朽化が進む公共施設の維持管理・更新経費などの増加が見込まれるほか、物価高騰対策に取り組む経費も引き続き必要です。

こうした状況での予算編成となりましたが、本市が次の世代にとっても誇りが持てる都市となるよう、「ひとが真ん中。」を基本姿勢とした五つのまちづくりの考え方に基づく政策を中心に、少子化対策はもとより、医療や防災の充実、脱炭素社会の実現に向けた取組などについて、必要な経費を予算に盛り込んだところです。

まず、予算規模については、一般会計の当初予算額は2,118億5,000万円で、本年度6月の肉付け後予算との比較では2%の減となりました。一般会計に九つの特別会計と水道事業会計及び公共下水道事業会計を加えた市の予算総額としては3,632億7,400万円となり、本年度との比較では1.3%の減となっています。この結果、一般会計及び全会計の当初予算額と

しては、本年度の肉付け後予算に続く、過去2番目の予算規模となっています。本年度に比べ予算規模が縮小した理由としては、荷揚複合公共施設や大在東小学校などの大型施設が完成することや、ワクチン接種など新型コロナウイルスの関係経費が減少したことによります。

次に、新規事業を36事業6億円ほど計上するとともに、既存事業27事業についても、事業の実施体制や内容等の拡充によって19億8,000万円を増額したところです。

次に、新年度は、現在、建設工事が大詰めを迎えている大規模施設の供用開始が予定されています。荷揚複合公共施設と大在東小学校が4月に、「道の駅たのうらら」が夏頃に供用開始の予定となっており、市民の皆さんに有効に活用いただくとともに、観光客の増加など新たな活力の増進につなげていきたいと考えています。

歳入については、本市歳入の根幹をなす市税について、個人所得の増や法人の事業実績の回復が見込まれるものの、来年度は定額減税が予定されており、その影響が約20億円と見込まれています。このため、前年度の肉付け後予算と比較して約6億円の減収を見込んでいますが、定額減税による税減収分については国から全額補填がある見込みとなっています。また、国、県の補助金を最大限に活用します。

基金の活用については、45億円取り崩しています。

プライマリーバランスについては、20億円の黒字となっています。令和4年度当初予算と令和5年度の肉付け後予算の時点では赤字でしたので、3年ぶりの当初予算での黒字となります。これは、大規模施設の完成による地方債発行額の減が大きな要因ですが、今後ともこうした財政指標等の動向にも十分留意し、中長期の財政収支を見通す中で、安定的な財政運営に努めたいと考えています。

次に、扶助費については681億円となり、前年度との比較では48億円、7.5%の増となっており、私立認可保育所等の給付費や児童手当、障がい者関連の事業費の増が主な要因となっています。

次に、普通建設事業費については、事業費として294億円を確保したところであり、地域経済の活性化や景気の下支えにつなげていきたいと考えています。

また、増加する社会保障関係費への対応や中学生の学校給食費無償化をはじめとした少子化対策などの取組に必要な財源を積極的に確保するため、社会情勢の変化等により必要性が低下している事業や費用対効果が低い事業、他の事業と重複している事業などについて見直しを行いました。

見直した事業は廃止することとした5事業を含む32事業で、効果額は7億3,000万円となっています。このうち、企業立地促進助成金については、上限額の一部引下げや同一企業の支払い期間の重複制限など、制度変更を行うこととしています。今回の当初予算では現行制度での支払いの確定額を計上しており、見直しによる効果額はありませんが、今後、申請される助成金から効果が表れ、現在の申請相談から試算すると3億5,500万円の効果を見込んでいます。

このほか、出生した子ども一人につき5万円を本市独自に給付する「すくすく大分っ子応援事業」の廃止によるものが1億8,100万円、長寿祝福事業の見直しによるものが4,400万円などとなっています。こうした見直しにより、新たな事業を行うための財源を生み出して、持続可能な財政運営につなげていきます。

それでは、先ほど申し上げました五つのまちづくり、政策項目の観点からその取組を御説明し

ます。予算額の大きいものや新規事業を中心に説明させていただきます。

1つ目の「ひとを守る」では、安全・安心な医療防災体制を構築してまいります。

まず、消防指令業務の共同運用では、荷揚複合公共施設の4階において10月から共同運用を開始するため、消防指令システムの整備等を行います。

救急医療電話相談事業では、夜間や休日において急な体調不良やけがで病院を受診するべきか救急車を呼ぶべきか迷った際に、#7119をダイヤルし、看護師等からアドバイスを受けられる専用電話による相談窓口を10月から開設します。これによって、夜間及び休日当番医の確保・維持が課題となっている中、市民が安心して相談できる機会を確保するとともに、潜在的な重症者の発見・救護を行うことができるものと考えています。

地域医療情報ネットワークの開始では、現在、運営協議会において、医療機関が市民の診療情報等を共有し、一人ひとりに合った、より質の高い医療の提供を可能とする「おおいた医療ネットワーク」のシステム構築を行っています。その運用が7月から開始される予定となりますので、効果的な事業運営が可能となるよう支援します。

戸次地区防災拠点施設整備事業では、10月の供用開始に向け、引き続き防災備蓄倉庫等を整備することとしており、災害救援物資の輸送拠点としての機能と地域の緊急避難場所としての機能をどちらも確保します。

次に「ひとを育む」では、妊娠、出産から子育て、大学などの高等教育まで、切れ目のない支援を行ってまいります。

まず、本年度から準備もしくは開始した少子化対策に係る四つの取組について御説明します。

大分市にこにこ保育支援事業では、本年度システム改修の経費を計上していますが、認可外保育施設利用者の第2子以降の3歳未満児の保育料を、4月から月額3万5,000円を上限に無償化の対象とします。これにより、認可外保育施設についても、認可施設と同様に、保育の必要性がある3歳から5歳までと3歳未満児の第2子以降の子どもが無償化の対象となります。

本市では、令和2年度以降、4年連続で待機児童ゼロを達成しているものの、1、2歳児の未入所児童は依然として多い状況にあります。本事業の開始により、未入所児童のうち、やむを得ず認可外保育施設を利用する保護者の経済的負担の軽減や、これまで利用料負担を理由として認可外保育施設を希望してこなかった保護者に対し、認可施設以外の選択肢を広げることにもつながると考えています。

子ども医療費助成事業では、現在、中学生までを対象としている助成範囲を令和6年4月診療分から高校生世代まで拡大します。

中学生学校給食費無償化事業については、本年1月から実施しておりますが、新年度も事業継続するための予算を確保しています。

返還免除型奨学資金事業では、大学等に進学した学生が卒業後、本市に居住または市内の事業所等で働くことで、奨学資金の返還を免除する新たな奨学資金制度を創設します。令和7年度の入学者から対象とし、入学一時金として、県内進学者には50万円、県外進学者には80万円を貸与するとともに、学費として年額50万円を貸与することとします。また、対象人数は29人以内とします。

本制度は、大学等を卒業後5年間市内に居住や就職した場合には、その年から段階的に返還を免除します。また、卒業後に大学院への進学、海外留学、本市以外の地域で勤務するなどの経験

を積み、その後、市内に居住や就職する場合については、最大で5年間の返還猶予期間を設けることとします。本事業により、進学を志す学生の経済的な負担を軽減し、未来を担う若者の夢や希望を後押しするとともに、卒業後に本市で活躍する人材の育成、確保を図ります。

以上、4事業の全てについて、新年度から事業が実施されることとなります。

このほか、子どものための医療用ウィッグ等購入費助成事業では、様々な疾病による脱毛症状を抱える小中高生に対して、医療用ウィッグ等の購入費を助成します。これまでも、がんによる脱毛症状を対象とした大分県の助成制度はありましたが、本制度では、がん以外の疾患や外傷などでも助成対象とするとともに、年度ごとに再度の申請を認めることで、児童生徒の成長に伴うウィッグの買い替えやヘアスタイルの変化にも対応できるようにして、経済的負担と学校生活や社会生活での心理的負担の軽減につなげます。

小学校5年生ピロリ菌検査事業では、胃がんや慢性胃炎等の原因の一つであるピロリ菌の検査を、現在、小学校5年生の希望者を対象に行っている血液検査の項目に加えることによって、陽性となった児童には2次検査を行うこととします。また、検査後には、除菌治療までの間、継続的なフォローアップを行うことで、将来の胃がん等のリスクを軽減していきます。

次に「ひとを支える」では、誰もが役割を持ってお互いに支え合い、自分らしく働ける社会を目指してまいります。

まず、地域の食と居場所づくり推進事業では、全世代を対象に地域食堂を通して交流活動を行うボランティア団体等を支援することで、地域での共助の取組を活性化させ、社会的な孤立など支援が必要な方を関係機関へつなぐ体制づくりを行っていきます。

長寿応援バス事業では、現在、利用料金を市内一律150円として実施していますが、大分バスが初乗り運賃を150円から180円に改定することに伴い、本事業における大分バスの利用料も5月から初乗りと同じ180円に変更します。

なお、大分交通及び臼津交通については、現段階で運賃改定の発表はありませんが、改定が行われれば、同様に利用料金を変更したいと考えています。大分バス利用者については1回につき30円の負担が増えますが、引き続き初乗り運賃で利用できるよう、本市においても事業費を増額計上しています。御理解の上、健康の維持、増進や積極的な社会参加のため、ぜひ積極的に御利用いただきたいと思います。

デジタルトランスフォーメーション推進事業では、住民記録システムなどの20の業務システムについて、国の標準仕様書に準拠したシステムに移行する情報システムの標準化を進めるとともに、データ利活用システムや有償の生成AIサービスを導入するなど、更なる業務効率化と行政サービスの向上に努めます。

次に「ひとを豊かに」では、市民生活の向上と心豊かな暮らしの実現を図ってまいります。

まず、脱炭素先行地域づくり事業では、環境省が実施する脱炭素先行地域への選定を目指します。具体的には、2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門の電力消費に伴う二酸化炭素排出の実質ゼロの実現を2030年までに実施できるよう、持続可能な脱炭素社会の実現に向けた取組を推進していきます。

新環境センター整備事業では、令和9年度の稼働に向け、本体工事に着手します。

宅配ボックス設置費補助金では、非常に好評でありました本年度の実施分から予算総額を増額

し、戸建て及び集合住宅への設置に助成を行い、宅配での再配達を抑制し、物流における温室効果ガスの排出削減を図ります。

園芸振興総合対策事業では、菊などの栽培施設の整備や先端技術を活用したスマート農業技術の導入を支援するほか、農業収入の安定確保を図るため、農業者が新たに収入保険に加入する際に、掛金に対し補助を行うこととします。

若手起業家育成事業では、現在プレオープンしている若手起業家育成施設の本格稼働に向けた準備を進めるとともに、セミナーの開催などにより、若者の創業マインドの醸成を図ります。

工場夜景クルーズ実証事業では、本年度に引き続き、新年度は福岡・大分デスティネーションキャンペーンや全国豊かな海づくり大会等に合わせ、5月から8月までと11月に実施する予定としています。臨海部の工場群は日本の工業を牽引する本市の強みであり、グリーンコンビナートへ変化していく工場群を、本市で撮影された映画「52ヘルツのクジラたち」の舞台となった美しい別府湾の魅力とともに、新たな観光資源として生かせるよう取組を推進していきます。

全国豊かな海づくり大会関連事業では、11月に開催予定の第43回全国豊かな海づくり大会に合わせ関連行事を開催することで、水産物の消費拡大と環境保全の啓発を行うとともに、大会の機運醸成を図ります。

次に「ひとを元気に」では、ひととまちが元気に輝き続け、新たな魅力が生まれるまちを目指してまいります。

まず、大南地区スポーツ施設整備事業では、令和7年度の供用開始を目指し、施設整備工事を進めるとともに、駄原総合運動公園テニスコート改修事業では、本年7月の全国高等学校総合体育大会に向け、引き続き工事をを行います。

アーバンスポーツフェス開催事業では、本年度の事業実績やアンケート結果を参考に、アーバンスポーツの更なる普及促進に向けたイベントを開催します。新年度は、10月と3月の2回の開催を予定しています。

高島キャンプ場整備事業では、令和7年度のリニューアルオープンに向け、老朽化した既存施設を撤去し、テントサイトや管理棟、炊事場等を整備します。

若者活躍推進事業では、現在策定中の（仮称）大分市若者活躍推進プランに基づいて、若者の目線から市に対して事業やアイデアの提案等を行う若者会議の設置に向けた検討を行い、若者が持つ活力と行動力を社会につなげ、その活力が循環する町の実現を目指します。

（仮称）おおいた花火大会補助金は、1951年から続いた納涼花火大会が経費の問題などで今後開催されない見通しとなっていました。本市の夏の風物詩でもあり、再開を期待する市民の声が多くありました。こうしたことから、本市をはじめ、官民で構成する実行委員会を設立し、来年度の開催に向け協議を行った結果、本年8月31日土曜日に開催する方向で協議が整ったところです。本市としては、必要経費のうち、警備費等の維持管理費相当分として600万円を実行委員会に補助することとしており、引き続き実行委員会で開催に向けた準備を進めることとしています。

その他の取組として、物価高騰対策関連として11事業、7億2,350万円を計上しています。燃料費高騰に加え、2024年問題に直面する貨物輸送事業者への支援をはじめ、業務効率化等に取り組む交通事業者への支援、肥料等の価格高騰の影響を受けた認定農業者や畜産経営

者、漁業者の支援も行います。

また、本年度に引き続き、エアコン、冷蔵庫を対象として、省エネ家電の購入費用の一部助成を行い、家庭における温室効果ガスの排出削減と市民負担の軽減を図ります。このほか、市立小学校の学校給食材料費の高騰分は公費負担します。

次に、令和5年度3月補正予算案についてです。

総額14億7,400万円を計上しています。

まず、小中学校のトイレの改修やエレベーターの設置、体育館の長寿命化改修工事を行います。

また、鉄道の残存敷整備・活用事業を令和6年度当初予算と併せて引き続き実施し、これにより、順次行ってきた日豊本線西側鉄道残存時期の整備が全ての区間で完成することとなります。

最後に、中央通り線歩道修景整備事業について説明します。これは「ひとを豊かに」の中にも記載しており、当初予算と合わせた予算計上となります。

市道中央通り線については、本市のメインストリートにふさわしい魅力あふれる通りとしての整備や美しい都市空間の形成、中心市街地の活性化、周遊性の向上などに寄与することが求められています。こうした中、歩道部分については整備後約35年が経過し、タイル舗装などの劣化が年々進んでいることから、令和7年3月の完成を目指して歩道の修景整備を行います。

整備に当たっては、循環型社会の形成やカーボンニュートラルへの取組の一環として、市有林の間伐材をリサイクルした木質ブロックを一部に使用することとしています。この木質ブロックについては、ふるさと納税などを活用して市内外から多くの賛同者を募り、ブロックに名前を刻印したものとするよう考えています。募集個数の予定は1,000個で、募集期間は本年6月から7月までの2か月を想定しています。具体的な方法や金額などについては、決まり次第、改めてお知らせします。

このように、次世代に引き継いでいく市民共通の貴重な財産である中央通りを市民参加により整備することで、市民に新たな誇りや愛着が生まれるとともに、令和7年4月から開催される大阪・関西万博によるインバウンドをはじめとして、国内外の多くの来街者に対し、本市の特色あるまちづくりをアピールしていきたいと考えています。

以上が3月補正予算を含めた令和6年度当初予算案の概要です。なお、各事業の費用や内容等の詳細については、後ほど財政担当から説明させていただきますので、よろしくお願いします。

《2. 4月1日（月）、荷揚町に複合公共施設がオープンします！》

2点目は、荷揚複合公共施設のオープンについてです。

荷揚町小学校跡地にて整備を進めてきた複合公共施設が令和6年4月1日にオープンしますので、お知らせします。

「地域住民や訪れる人が安心して快適に過ごせる憩いの場の創出」をメインコンセプトに、令和2年度の事業者公募、令和3年度の基本設計、実施設計を経て、令和4年7月から建設工事に着手し、事業を行ってきました。

現在は、災害対策本部室や消防指令センターのシステム機器の設置工事など、それぞれの施設の運用開始に向けた準備を行っているところです。

それでは、施設概要を御覧ください。

複合公共施設は地上7階建てで、2階と3階の間に免震装置を設置した中間階免震建築物となっており、建築面積や延床面積は資料に記載のとおりです。

常設の災害対策本部室や全県下の119番通報にかかる消防指令センターを設置することから、大災害が起こっても、防災拠点として迅速かつ継続的な災害対応を行うための建物性能を確保しています。

主なものを紹介しますと、まずは、免震建築物であること。

また、一般的に電力は1か所の変電所からの受電が原則となっていますが、本施設は防災拠点となることから、2か所の変電所から受電します。これにより、仮に一つの電源が途絶えても別の変電所から供給を受けられます。

そして、最大負荷をかけた場合で72時間発電可能な非常用発電機を設置しています。発電量に多少余裕がありますので、負荷を減らせば7日間程度は使えると想定しています。また、移動電源車の接続口を設置することで、配線工事を行うことなく外部から電源供給を受けられます。

その他、飲料水とトイレを流す水の確保と公共下水道管が使えなくなってもトイレが使えるように、地下に汚水貯留槽を設けています。以上のことから、複合公共施設はインフラが途絶しても7日間程度は自立して災害対応業務を継続できると考えています。

次に、各階のフロア構成です。

1階から2階が市民コミュニティフロアとなります。1階には旧中島小学校から移転する府内こどもルームや中高生が学習するためのフリースペース、展覧会やイベントなどで使用できるコモンスペースがあります。2階には、大分中央公民館やコモンスペース、絵画作成などで使用できる実技室があります。なお、敷地の西側にある旧荷揚町小学校体育館は、大分中央公民館が管理する体育施設となります。

3階から6階は市役所の庁舎となります。現在、荷揚町には、本庁舎、第2庁舎、議会棟と3棟あります。複合公共施設の市役所庁舎部分はこれに加わる形で、現在のところ別館と称することとしています。

まず、3階には子どもすこやか部が本庁舎から移転してきます。

4階にはおおいた消防指令センターを配置し、5階には常設の災害対策本部室と防災危機管理課、そして、舞鶴町の消防庁舎から消防局が移転してきます。なお、消防局移転後の庁舎には中央消防署が残り、消防車や救急車をこれまでどおり配置します。

6階は市役所の会議室と防災備蓄倉庫となります。そのうち、多目的大会議室については、土日祝の閉庁日には一般貸出を行うこととしています。

続いて、今後のスケジュールですが、1階と2階のコミュニティフロアと5階の災害対策本部室と防災危機管理課、6階の各会議室が4月1日からオープンします。

3階の子どもすこやか部は、3月から4月初旬までの繁忙期を避けて、4月末に移転します。

4階のおおいた消防指令センターは、7月までに大分地域の指令業務の切替えを行い、それに合わせて消防局も5階に移転します。その後、大分県下の各消防本部が順次切替えを行い、10月には全県下での共同運用開始を予定しています。

次に、式典等の開催概要を御覧ください。

竣工記念式典は、複合公共施設6階の多目的大会議室で午前10時から行います。

また、市民の皆様に、複合公共施設を自由に見学していただける内覧会を行います。見学時間は午後1時から午後5時までとしており、事前予約は必要ありません。

内覧会同日の午後２時から、複合公共施設の１階コモンスペースで竣工記念どこでもコンサートを開催します。こちら事前予約は必要なく、入場無料ですので、施設見学と併せてお楽しみいただければと思います。

施設のオープンを記念して、コモンスペース及びその活用方法を広く市民の皆様にご案内いただくことを目的に、本市在住の画家 北村直登氏の展覧会を開催します。

多くの市民の方が内覧会とどこでもコンサートへ御参加いただくとともに、４月から各施設を御利用いただきますよう、広く周知のほどをよろしくお願い致します。

２ 質疑応答

《 １．令和６年度当初予算（案）の概要について 》

記 者 予算に計上している事業のうち、大分市が把握されている限りで、全国的にも先進的な取組等があれば、教えてください。

市 長 まず、全県下の１１９番を一元化するというのは全国初です。それだけではなく、救急の電話相談に応じる機能である＃７１１９も非常に大きな取組だと思います。

地域医療情報ネットワークは全国初のものではないですが、今後の課題として、大分市ではこれに介護情報もひもづけたいと考えています。

返還免除型奨学資金は、その金額といい、仕組みといい、かなり画期的なものではないかと思います。

医療用ウィッグ等の購入費助成で毎年度申請することによって髪型が変えられるということや、小学校５年生の健診にピロリ菌の検査を加えるということは、全国的に見ても先進的な取組ではないかと思います。

そして、全国初ではないですが、中央通りの修景整備はメインストリートの周遊性を高めることと環境に優しい間伐材を利用するというもので、県内では大分市だけふるさと納税が赤字になっていますから、少しでもそれを減らすべく、ふるさと納税の仕組みも使いたいと思います。

《 １．令和６年度当初予算（案）の概要について 》

記 者 今回の予算において、足立市長が掲げる「ひとが真ん中。」という姿勢に関連した取組の中で、特にこれだけは譲れないというものがあれば教えてください。

市 長 少子化対策最優先という話は昨年からしていますが、それが恒常的に実施できるかどうかという質問も受けました。来年度予算については、今までお話しした点については恒常的にできるものだと思います。返還免除型奨学資金については、実際の貸与は来年度から始めても再来年度の入学者からとなりますから、今後どこまで安定的にできるかは未知数のところがあります。

救急の取組の＃７１１９は初めて聞く方もいると思いますが、厚生労働省や総務省消防庁から大分県でも取り組んでほしいという話が来ており、まずは消防指令の一元化を契機に大分市からスタートしようと思います。ある自治体では救急車の出動が４割近く減ったというデータもありますし、より必要性の高いところに集中できるということもあります。消防指令の一元化とセットにした形で、これも試みとしては画期的ではないか

と思います。

《 1. 令和6年度当初予算（案）の概要について 》

記 者 プライマリーバランスが3年ぶりに黒字ということですが、財政の健全化について、今どのような状況か市長の分析を教えてください。

市 長 何をもって健全化をはかるかという問題になってくると思いますが、一つの指標はプライマリーバランスで、もう一つは、いざというときのための三つの基金の残高です。基金残高の目標額は約200億円と設定していますが、来年度も45億円取り崩す形になって目減りしてきています。プライマリーバランスの黒字化を一つのきっかけにして基金の積み増しを今後図っていったら、より安心できるのではないかと思います。

国に比べると、義務的経費に対する投資的経費の比率は高いですが、それでも経常収支上、硬直化してきています。この自由度を高めるためには、成長を促す部分、消費を促す部分等で地方の税収を上げていく必要があると思いますし、新たな産業イノベーションが求められているところに積極的に投資できるような環境にしたいと考えています。

記 者 財政の健全化に向けて、税に関する新たな施策を考えていましたら教えてください。

市 長 税制については市で対策を考えるというより、まず国全体の枠組みがあると思います。市の歳入でメインになっているのは、市民税と固定資産税、地方消費税、地方交付税交付金というようなものです。交付金は国から配分されますから、地方財政措置をしっかりとってもらいたいと思いますし、これは要望するしかないわけです。市民税や固定資産税、消費税については、固定資産税の基礎となる地価に関しても、市が直接どうできるものではないです。

市ができることとなると、消費を生むような取組や居住者や観光客を増やすような取組です。大分市は県内からの転入者が多く、特に子育て世代が多くなっています。こうした方々に、大分市で暮らしてみても、子育てしやすい、働きやすい、いい環境だと思ってもらう。そして、出産を希望する方がお子さんをちゃんと産み育てられるということが定着したなら、定住される方もどんどん増えていくと思いますし、そうすると税収も自然と上がっていく。そういうような循環になるのではないかと思います。

《 1. 令和6年度当初予算（案）の概要について 》

記 者 予算の基本姿勢を「ひとが真ん中。」とした理念を教えてください。

市 長 これまで、経済が成長すればいずれみんな豊かになるという考えが広められてきたのですが、その中で置き去りにされてきたというか、問題にされていなかったような部分があると思います。

ひとを中心に考えていくとみんなつながってくる。政策を整理するときに、ひとを真ん中に置いてやるべきだというのが全体の考え方です。これは、ひとが主役ということではなく、ひとが中心の政策構成をしていけば全部つながってくるという意味です。

記 者 当初予算において、AIを活用した取組があれば教えてください。

市 長 生産年齢人口が全国的に減っていく中で、大分県において中心的存在である大分市ではほとんどの分野で人手不足となっています。そのため、DXによって効率化できる分野は積極的に行わなければなりません。私が今まで関わってきた分野でいうと、医療や

介護・福祉、行政の部分がまだまだ遅れていると思います。

D Xを行う最大の利点は、市民の皆さんの利便性の向上です。受付窓口がわかりやすいと思いますが、来庁者が窓口でどのような問題を抱えているのかを選択あるいはデータ入力することによって関係課が共有できる。そして、解決策についてもあちこちに行くのではなくて、道筋としてルートができ上がっている。こうしたことが受付を中心としたフロントヤードの利便性向上であると思います。

2つ目は、予算も含めたバックヤードの政策づくりです。中央でも批判される縦割り行政というものがD Xによって連携させることで、その壁が除かれていくと思います。昨年8月に大分市では全国に先駆けて生成A Iの使い方の手引きを作りましたが、これを参考にしている市町村もあると聞いています。例えば、アンケート調査を行う場合でも、質問内容の検討や結果分析、解決策の提案までつながっていくようなことができれば、人間だけで行うよりも精度の高い政策提言ができるのではないかと思います。フロントヤード、バックヤードともに活用しない手はないと思います。

もう一つ、市民の皆さんからの意見聴取に関して、昨年、休日夜間の医療提供体制・診療体制に対するアンケートを行いました。郵送とL I N Eでアンケートを実施して、結果はほとんど一緒でした。例えば、問題点や要望について、公式L I N Eに登録した方々がメッセージを送っていただければ、すぐに意見が集約できて、結果を分析してどういう解決策を作ればいいのかということまで可能になってくると思います。

《 1. 令和6年度当初予算（案）の概要について 》

記 者 事務事業の見直し効果の金額や事業数に対する市長の評価を聞かせてください。

市 長 先ほど説明の中でも触れましたが、初年度から効果が表れるものと、次年度以降から表れるものがあります。例えば、企業立地の促進助成金にしても、仕組みを見直した後に申請を受け付けて助成を行う場合は今よりも大きな差が出てきますので、現段階としては想定内という判断をしています。

《 1. 令和6年度当初予算（案）の概要について 》

記 者 予算全体を見渡しての市長の予算への思いや評価、狙い、編成に苦労した点など、総括的な話を聞かせてください。

市 長 予算全体で言うと、新しいことが相当多くあることに触れていただきましたが、それを継続できるかどうか予算の最大のポイントだったと思います。それについては、予算をしっかりと確保できて、プライマリーバランスも黒字になって、予算額も今年度の肉付けよりも減らすことができている。効率的になったのではないかと思います。

私が選挙前のマニフェストで掲げて、これはやりたいということには、ほとんど手がついています。もう少しやりたかったという部分はないとは言いませんが、おおむねできているのではないかと思います。

先ほども質問があった事務事業の見直しですが、行政にとって事務事業の見直しというのは不断の努力をしなければいけない分野です。市役所でも、そのような仕組みが外部も内部も、そして議会にもあって、それぞれ努力されている結果、まだまだ見直すところが出てくるということです。これは毎年度、毎年度やらなければいけませんので、来

年度はこのような見直しの金額ですが、再来年度はさらに増えてくると思います。

それから、大分市が抱えている最大の事業は、新環境センターだと思います。令和9年に向けてかなりの歳出が出てくる。そのときまでに、基金は可能な限り積み上げておきたいと思います。

そういうこともあって、全体の予算については、やりたいと思っていることの大半は可能性が出てきているし、継続性も出てきていると思います。それに対して予算が大きく膨らんでいくということもなかったし、スリム化は図りつつも非常に練り込まれている予算になっているのではないかと思います。

《1. 令和6年度当初予算（案）の概要について》

記 者 市内でどれくらいの子どもが医療用ウィッグを利用しているのですか。

市 長 今、数値を持ち合わせていないのですが、分かる人いますか。

担当課 予算上は30件程度を想定しています。

市 長 なぜ“想定”と言ったかということ、県の事業のようにがんの治療による脱毛であれば実際の数はわかるのですが、特にこれといった疾患等がなくて脱毛の子もいます。そのため、正確には把握できないのではないかと思います。

県のがんに対する助成制度も1回だけで、そうなるといつも同じ髪型になってしまいます。成長期であって、変化を求めたい年頃の小中高生ですから、市の制度は疾患を選びませんので、ぜひ利用していただきたいと思います。そして、それによって積極性をより増してほしいと思います。